



CANOA

だより

no.

44

2009年7月発行

文・写真_鈴木真由美 編集_橋口博幸 発行_ブラジル事務局

Praia do Esteveao s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP: 62800-000

長かった雨季に終わりをづけ、乾季となったカノア。青々とした植物たちにはこれから厳しい時期がやってきます。今年は雨量が例年よりもはるかに多く、観光地カノアと私たちの活動地であるエステーヴァン村をつなぐ道が二度も切断されました。地面が真っ二つに割れ、その大きく開いた穴を見た時には驚きを隠せませんでした。そんなときでも子ども達は笑顔でこんなことを言うのです。

「まゆみ、よかったね!!!この穴を通れば日本の家族にすぐ会えるよ。」

それを聞いた私は一緒に笑うしかありませんでした。森ではすでにたくさんの木の实が生り始め、小鳥たちは忙しそうに青い空を飛びまわっています。子どもたちも空腹を間際らわすためか、ただ遊んでいるだけなのか、毎日のように森に行ってはたくさんの木の实を口に頬張って帰ってきます。いつまでも子ども達がこのように自然の中で共に育んでいくことができるよう、願っている私です。

日本に一時帰国していた際にお世話になりました皆様、どうもありがとうございました。総会の席では会場に溢れんばかりの人が訪れ、元ボランティアの皆の協力もあり、本当に素敵な会を行うことができました。この場を借りてすべてのスタッフ、元ボランティアの皆さん、そして会場に来てくださった会員の皆さんやその友人、知人の皆様に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。これからもこの小さな漁村の子ども達とその村を支えていくべく、現地スタッフそして日本のスタッフともども誠心誠意努めていきたいと思っておりますので、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いたします。



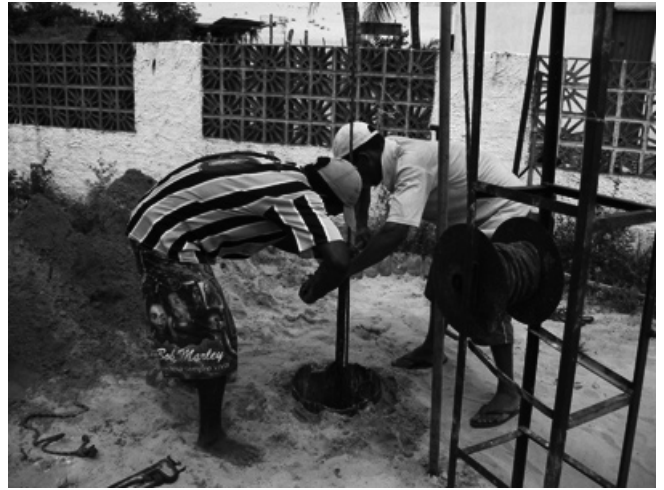
寄付のお願い

私たちの活動は主に日本からの協力、支援によって成り立っています。現地でもアラカチ市教育局との協力により一部の食材や物資支援を得られている他、近隣の商店からの食材支援、物品販売による毎月の収入、各家庭からの洗剤等の寄付を頂けるように努めています。それでも、ブラジルの最低賃金が上がり続ける中、物価も上昇し、それに反して失業率の増加に歯止めがかからない状態において、教職員の給与の確保が難しくなっています。ブラジルの経済向上の背景には、貧富の差の広がりがあり、農漁村地域ではそれが特に深刻化してきています。教育、保健・医療、富める人にはすべてのものが手に入り、貧しい地域には教師や医師さえもないという現状。現地で活動している私達だからこそできることがたくさんある。保護者を中心として、地域住民と協力しながら何とかこの活動を継続していきたいと思っております。子どもが幸せに暮らせる社会というのは、人間すべての人にとっても素晴らしい社会である。だからこそ、子どもがいつまでも笑顔の絶えない、輝く目を持ち続けていくことのできる環境を作り続けていきたいと考えています。

どうか皆さん、今後もここカノアで活動を続けていくことができるようにご支援、ご協力のほど、よろしくお願いたします。

味の素より助成金を頂きました !!

味の素「食と健康」国際協力支援プログラムより、『園庭菜園及び地域で入手可能な食材を利用した子どものための栄養給食プログラム』として2009年4月1日～2011年3月31日までの事業を実施することとなりました。CANOA だより第43号で皆様にもお伝えしましたが、昨年11月に行われたイタリア人の小児科医による診断の際、生活は改善もしくは向上しているにもかかわらず多くの子どもが栄養不良もしくは栄養失調であるという現状を受け、私たちは子どもたちへの栄養改善プロジェクトの必要性を強く感じました。今回この事業を通じて子ども達の栄養改善に積極的に取り組んでいきたいと考えています。栄養士による子どもたちへの定期的な健康診断をはじめ、教職員、保護者に向けた栄養講座を開催していく予定です。また、昨年より取り組み始めた保育園の園庭を利用した菜園もこの事業によって、より一層の発展を目指していきたくと思っています。子ども達自身も菜園を通じて野菜と接する機会が増え、自分たちの手で収穫し、それを楽しく、おいしく食べることができればと考えています。すでに井戸掘りも完了し、菜園の維持に関しての整備も順調に進められています。子ども達の栄養改善に向けて頑張ります !!



地球市民財団より助成をいただきました !!

『ブラジル東北部貧困漁村地域における幼児教育者育成事業』として、2009年4月1日～2010年3月31日まで事業を実施する予定です。アラカチ市社会福祉局と協力しながら幼児教育に関わる教職員30名に対して行われる本事業。2008年11月に「幼児教育は教育の基盤であり、その強化事業として2011年までに国内すべての0～3歳児の50%が保育園に入園し、4～5歳の80%が幼稚園に入園できるように公立学校の環境整備を行い、教師の育成を行うこと」と、発表されたにもかかわらず、環境整備はおろか、教師の育成を行うことができるのかどうか分からないというのが実情です。そんな自治体の現状を考えると、本事業の実施の必要性は非常に高いといえます。そんな中、7月2、3日に第一回目の講座が開催されました。丸一日の講義にもかかわらず、2日続けての講座に29名が参加し、0～6歳までの初期の子ども時代の大切さについて学びました。この講座は全部で5回開催される予定で、次回は「胎内から自然のお産を経て…」をテーマに、開催する予定です。講座に関してはブログでも公開していますので、ご興味のある方は是非ご覧になってください。



→ <http://blog.livedoor.jp/marciano211/>

子育て日記より

一歳七か月の姪っ子が一人で突然我が家に来てきた。確かに歩いて三分程度のところに家があるのだが、まさか一人で？と母としての私は心配してしまっただけ。そのすぐ後、近所の男の子が、姪っ子が我が家に来ているかどうかを確かめにやってきました。そして、姿を確認すると安心したように戻っていくのである。三十分ほど経った頃、電話が鳴り、「うちの子が行ってる？面倒見切れないようなら連絡して」と義姉が言うではないか。これにも本当に驚いた。だって、まだ二歳にもなっていない子ども。

確かにこの村は自然豊かでみんなが知りあい。だからこそ、子ども達ものびのび育っている。でも、これは伸び伸びさせすぎなのではないかと思う。車やバイクの往来だつてある村の中。犬やときには牛だつて放し飼い。そんな中を一人で歩いてくるのが許されないと、こんなに幼いころから学んでしまったのだとしたら、これからどうなってしまうのだろうか？自由といえば聞こえがいいかもしれない。でも、親として、最低限のリミットは示すべきだと私は思う。幼いころにこのリミットを示すことができなければ、十代になって親の言うことも聞かずに好き放題になつても文句が言えないのではないだろうか？同じ親としてかなり心配になつた出来事であつた。

フラビアアーニ研修日記

今年一月十八日に私たちの教職員の一入である「フラビアアーニ」がサンパウロのモンチ・アズールコミュニティー協会で一年間の研修を行うために旅立ちました。私たちが今後の活動を考える上で、教職員の中からすべての活動を視野に入れることができる人材が必要になってきたからです。個々の教室の運営は十分行えることができるようになってきたものの、その周囲すべてを把握し、活動に生かしていくことのできる人材が今までいませんでした。この小さな村で活動を継続していくためにはこうした視野を広く持つことのできる人材が必要不可欠となります。そこで彼女に白刃の矢を立て、研修へと送り出したのでした。(左記は彼女の報告書です)

「一九〇九年一月十八日、私はモンチ・アズールへと到着しました。私はカノアの活動の創始者のひとりでありました。エヴァさんは仕事のことだけでなく、人生の先輩として専門的なことから個人的なことに至るまで助言を与えてくれます。カノアのことを思い出さない日はないほど、本当に懐かしく感じています。(Sandrad)最初の頃は寂しさから夜な夜な枕をぬらしていました。同じブラジル国内とはいえども、カノアとサンパウロは環境だけでなく、食べ物や文化：あまりにも違うことが多すぎたからです。」

今 はこの新しい場所で子ども達や青少年と働くことができ、とても嬉しく思っています。学ぶことが本場に沢山あるのです。一月末にはモンチ・アズールコミュニティー協会に関わる全ての人が集う機会があり、それに参加してきました。この集まりは一カ月に一度程度行われているらしいです。この集まりの中で一年の方向

性をみんなで議論しながら決めていくのです。私は今、午前中に十四、二四歳までの若者を対象とした職業訓練事業(パン作り、調理、裁縫、情報処理、手工芸)に参加しています。若者たちは皆好奇心が旺盛で、新しいもの目がなく、世界のあらゆる情報にたけてるように見えます。職業訓練事業では技術だけでなく、将来設計や経済などの講義も同時並行で行われており、サポート体制の素晴らしさに感嘆してしまいました。まだまだ学ぶことばかりでうまく整理できていませんが、これらをカノアの活動にどうやれば生かしていくことができるのかと常に考えていきたいと思っています。



共に活動するということ

人 はそれぞれに役割があり、それぞれのミッションを背負っている。私は信じています。そのため、異なる人々がたくさん集まる所では議論が絶えないかもしれませんが、お互いが支えながら協力してことを成し遂げる強さがあると思うのです。私たちが活動を行っていく上でも、教職員すべてが参加しながら、時には議論をしつつも、活動を行ってきています。

た だ、様々な活動が同時に行われている中、ある一つの活動のみにはしか目を向けることができないというのには共に活動していく仲間として受け入れていくことが困難であるといわざるを得ません。確かに一つのことを深く掘り下げ、そこに根をおろしている人がいるのならばその活動は安定して、安心して見ていることができるでしょう。一方で、その周囲に目を向ける人もいなければ、自己満足で終わってしまいかねないこともたくさんあります。だからこそ、率直に意見を交換するということを積極的にに行っていく必要があると考えています。

だといわれると、それはそうだと納得してしまうのです。

私 たち日本人はこういういった積極性に乏しいとよく言われます。確かに、協調性を重んじるばかりに異なる意見を言いつらい状況があるのかもしれない。カノアではあまりにも率直すぎてひやひやする場面がよくあります。それでも、お互いを知らなければどうして一緒に働くことができるの

お互いに傷つけることのないように、しかし、率直にそれぞれが意見を言い、それを聞き、受け入れていくということは簡単ではありません。それでも、こうしたことを経験していかなければ世の中生きていくことも難しいでしょう。多種多様な人間がいるのは当たり前。それぞれ異なる考え、思考を持っていることも当然。ならばそれを受け入れる、もしくは聞く姿勢を養うことも当然でしかるべきなのかもしれません。共に活動すること何年たっても学ばせてもらうことばかりです。困難であることばかりに目を向けず、それを糧に前に進んでいくことができるよう、これからも皆で活動を作り上げていきたいと思っています。

ボランティアの皆さん、どうもありがとうございました！(以下2008年11月より現在まで)

- | | |
|---|------------------------------|
| 2008/1/28 - 2009/1/10: 福田太志 | 農業への取り組み、コミュニティーセンター管理及び補修 |
| 2008/8/1 - 現在: Harm Timme | ドイツ人、保育園の助手、青少年グループに参加、協力(*) |
| 2008/10/26 - 2009/1/10: Paul David Heckhausen | ドイツ人、音楽プロジェクトにて指導補助 |
| 2009/1/5 - 2009/2/4: 谷村祥子 | 日本文化教室を開講 |
| 2009/3/13 - 2009/7/2: Marina Sujani Karlsson | スウェーデン人、英会話教室を開講 |
| 2009/6/20 - 現在: Leidivania Abreu da Mata | ブラジル人、保育園助手、手工芸講座を開講 |

* 昨年度より、ドイツの団体『Freunde der Erziehungskunst Rudolf Steiners e.V. /』と協力し、ボランティア(1年滞在予定)の受け入れを開始。今後、毎年ボランティアを1人派遣してもらう予定。



平成 20 年 10 月 4 日 - 平成 21 年 6 月 29 日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。これからも 1 人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていただけると嬉しいです。目標会員 100 名!!

会費及び寄付を頂きました皆様

(以下順不同)

安孫子季久代さま
安藤一樹さま
市川由美子さま
エリースさま
OSC さま
大谷タカコさま
大塚崇志・晶さま
岡ゆり子さま
奥山海平さま
神谷須賀子さま
川田真弓さま
神田昌実さま
木田沙都紀さま
桑山寛子さま
坂井春菜さま
佐々木静子さま
佐藤知子さま
下向井稔史さま
鈴木真由美さま
諏訪田あつ子さま
高橋美智さま
橋幼稚園野のばらの皆さま
谷村祥子さま
長谷川伸さま
長谷川宏さま
平岩美弥子さま
堀池眞輔さま
堀池ミツ子さま
宮田文子さま
横浜南養護学校の皆さま
和井田ナミさま

有り難うございます!!

物資支援を頂きました皆様

(以下順不同)

Sra. Claudia Linhares
東海大学学生の皆さま
Maresia
和井田ナミさま

カノアでの活動や生活を通して、皆さんと共に学びあうことができるのではないだろうか?そんな思いから、現在下記の 2 つの雑誌にカノアの活動のこと、日常生活で感じたことなどを連載しています。ご興味のある方はぜひご覧下さい。

■ 婦人通信

〒 151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-11-9-303
婦人通信編集部
tel:03-3401-6147 fax:03-5474-5585
e-mail : fujin-tsushin@cotton.ocn.ne.jp
http://www16.ocn.ne.jp/~fudanren/

■ めたもるふおーぜ

〒 520-2271
滋賀県大津市稲津 2-15-6 (黒川方)
tel / fax : 077-546-4147
e-mail : metamor4se@yahoo.co.jp
http://www.geocities.jp/metamoru4se/

カノアでの日々
雑誌にて連載

光の子どもたちの会

「光の子どもたちの会」では、会員、協力会員を募集しています。支える会では「手工芸品の販売」「講演会」などにより多少の収入がありますが、充分な額ではありません。会の運営は全てボランティアにより運営されています。1 人でも多くの方々に会員、協力会員になっていただき、この会を支えていただきたいのです。頂きました会員費、協力会員費及び寄附などは、支える会の活動費、運営費となります。会員の方々には年 2 回の会報、講演会や、イベントなどのお知らせを、ブラジル事務局よりお送りいたします。

一般会員：年会費 5000 円
協力会員：年会費 1 口 36000 円以上任意額
尚、寄附、カンパは随時受け付けています。

■ 郵便振替

口座番号：00280-1-41787
加入者名：光の子どもたち-カノアの活動を支える会

■ ブラジル銀行 (Banco do Brasil) 口座

Agencia 0121-x
Conta Corrente 26357-5
Associacao Crianças de LUZ

支援者募集 !!!

今後も「光の子どもたちの会」として活動を継続していくために、最低でも現在 32 名の会員を 100 名にまで増やすことが必要不可欠であると考えています。現状では現地での活動を支えていくために必要な最低限の費用をまかなっていく事も、難しくなってくるでしょう。1 人でも多くの方に会員になって頂き、また寄付を頂くことができますよう、皆様のご支援・ご協力をお待ちしております。チラシの配布など、個人・団体問わず当団体の啓発に努めて下さる方はぜひ、日本事務局までご連絡いただければと思います。

「光の子どもたちの会」日本事務局 (堀池事務局長)

tel / fax : 045-321-1824
e-mail : horiike59@msi.biglobe.ne.jp